

多摩市 気候市民会議

第3回 脱炭素に向けて 社会編

脱炭素に向けて、まちに必要な機能やしくみを考えよう

開催レポート

日時：2023年6月17日(土) 13:30~17:15

場所：多摩市役所



当日のプログラム

第3回 脱炭素に向けて 社会編

脱炭素に向けて、まちに必要な機能やしくみを考えよう

項目	時間(分)	概要
開会	13:30 (10分)	本日のテーマと進め方のご説明 前回のふりかえり
情報提供	13:40 (30分)	脱炭素に向けて 社会編(移動・まちづくり) ゲストティーチャー:山下紀明 先生 多摩市みどりと環境審議会 地球環境分科会会長 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所(ISEP) 理事・主任研究員
市民団体から 取組の紹介	14:10 (20分)	よみがえれ、大栗川を楽しむ会 事務局メンバー 小山貴弓 様 多摩グリーンボランティア森木会 名誉会長 川添修 様 多摩市若者会議 高野 様
	14:30	休憩 (5分)
グループ別 意見交換	14:35 (90分)	テーマ:脱炭素に向けて、まちに必要な機能・しくみを考えよう
	16:05	休憩 (5分)
全体共有	16:10 (40分)	各グループから発表 全体シール投票
本日の総評	16:50 (10分)	江守正多先生、三上先生、山下先生から総評
閉会	17:00	次回の説明、アンケートの記入
終了	17:15	

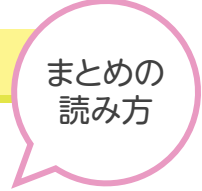
グループワーク のまとめ



テーマ 脱炭素に向けて、まちに必要な機能やしくみを考えよう

第3回では、脱炭素に向けてまちに必要な機能やしくみに関する具体策を考えました。各グループで出し合った「アイデア」をご紹介します。アイデアは、第1回で出し合った「30年後の多摩市の環境・社会のイメージ」（目指したい将来像）をもとに再整理しました。

全グループのまとめ



テーマ *第1回のまとめより

アイデア番号	30年後の環境・社会のイメージ 第1回のまとめより	アイデア名（まちに必要な機能やしくみ） 【イチオシの理由】	・脱炭素以外の相乗効果	・実施する上での課題	グループ	全体シール投票
--------	------------------------------	--	-------------------------------	------------------------------	------	---------

各グループのアイデア （ワークシート）

7つのグループが、
22のアイデアを
出し合いました！



食・消費

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしくみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
1	リデュース・リユース・シェアが進んだ、ごみや無駄なロスがないまち	<p>製品の長寿化などにより、消費社会からの転換を図る（GDPに変わる新しい指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費社会からの脱却、社会構造を変える 製品の長寿化によってゴミを出さない社会をつくる プラ製品から新しい素材の発明でバイオマスプラスチックなどへ転換 省エネ製品の普及 	<ul style="list-style-type: none"> 消費が減ると個人の支出も減る 長く使うものには、愛着が湧く 	<ul style="list-style-type: none"> 経済循環のあり方を変える必要がある GDPに代わる新しい指標をつくり、「豊かさ」や「幸せ」を評価する 	C	17
2		<p>長く持つモノを売りやすくする仕組みをつくり、耐久化への革新につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> 大量生産、大量消費の企業モデルを見直してもらう サブスク、リースなどでの契約も活用する <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> サブスクやリースになった場合、企業側も顧客と長く付き合えるというメリットがある 		<ul style="list-style-type: none"> 電気製品は長く使っていると電力の消費効率が悪くなる 	A	2

ごみ・資源循環

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしくみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
3	リデュース・リユース・シェアが進んだ、ごみや無駄なロスがないまち	<p>ごみ箱を広くまちなかに設置して、しっかり分別と管理をすることで、回収したごみを効率的にエネルギーに変換する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方などの雇用にもつながり、セーフティーネットのようなものになる ・ごみ袋を無料にする <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭での完全な分別やまちにごみが捨てられてしまうことを抑制するには限界があるため、一元管理できた方が良いのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちがきれいになり、クリーンな印象を与えられる ・高齢者や障害者の雇用にもつながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみが持ち込まないような対策が必要 ・雇用者への給料の出どころ、人件費の捻出が課題 	E	1
4		<p>コンビニや自動販売機などで売っているペットボトルの飲み物を給水タイプにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永山高校をモデル校にして設置する ・マイボトル、もしくは紙コップに入れる <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルをどう削減するかの解決に役立つ ・行政や大企業主導で行うとインパクトが大きそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・永山高校のステータスが上がる ・原液によって物流コストの削減につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面での懸念があり、店の管理も大変になる 	A	20

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしくみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
5	リデュース・リユース・シェアが進んだ、ごみや無駄なロスがないまち（続き）	学校の牛乳のストローをなくす <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の学校の給食で実施 ・市立、都立の学校から始める ・高校でもできそう ・大人が子どもを見て、生活の中で真似をしてくれたら良い 【イチオシの理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・すぐにできそう ・市が中心となって推進できそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの環境教育にもつながる ・袋があかないストレスがない ・捨てる時の分別が不要になる 		B	4
6		ペットボトル飲料はデポジット方式にする <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機の横に返金できる機能かポイント機能が付いたごみ箱を設置する ・缶では似たようなものがある ・缶やプラスチックのトレイなどにも応用できる ・分別したくなる仕掛けにする ・返金だけではなく、募金もできると良さそう 【イチオシの理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨てがなくなる、減らせる ・ペットボトル以外にも応用できそう ・ごみを拾って捨てたくなるかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームレスの仕事にもなる ・まちの景観が良くなる 		B	14

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
7	環境と経済に優しい住まいに暮らせるまち	<p>市が主導して百草団地などの古い団地を改修するなどし、脱炭素生活を送ることができるコミュニティや建物などをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強いコンセプトのあるコミュニティづくりが大切 ・PRでは、ピューロランドを生かすなどできるとよい ・市主導 <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュータウン再生、持続可能な最先端の都市になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口流入が増える ・観光客が増える ・ニュータウンの再生につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算 ・官民の連携や他市との連携も必要 ・現住民の理解が必要 	D	1
8		<p>団地改造によって脱炭素・エコ団地に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地内にシェアリングスポットを設置する ・発電の見える化の取組を団地内で実施する ・公園であそび発電をする ・水素ステーションを設置する ・団地内に畑をつくる <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩市の特徴である「団地」をターゲットに、地域として色々なアイデアを実現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・団地は規模が大きすぎて配置や棟番号がどこか分かりにくい、シェアリング設置とあわせて適切に改善することで迷わなくなる ・電車から団地を見ると暗いイメージだが、壁面の色を塗り替えるなどして明るくなる ・コミュニティの場で「遊び発電」などをして楽しく明るくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる人の理解 ・改造時には一時的な移転もあるので反対する人も出そう ・お金がかかりそう ・工事中的の問題 	F	15

エネルギー

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
9	脱炭素なエネルギーに転換しているまち	<p>太陽光発電は、パネルの製造から廃棄まで考えて広めていこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造については産業として育てる ・廃棄については環境への影響を少なくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・製造から廃棄まで考えることで、他の環境問題の対策を考える際のモデルになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネに関しても、儲けだけを考える人が出てくるのが心配。利益をまちに還元する仕組みをつくる必要がある 	C	7
10		<p>太陽光発電が広がる基準や仕組みをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルの設置や継続に対して補助金を給付する ・屋根を行政に貸出す仕組みをつくり、設置からメンテナンスまでを行政が担うことで、住民の負担が減らせる ・貸出すメリットとして、戸建ては個人に集合住宅は管理組合にお金が入る ・耐震基準のように、パネルの設置や断熱機能などにおける基準を定めて義務化する ・つけたら良いではなく、「すべき」とする <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素の取組として、一番効果がありそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準については、エコカーなど、他の取り組みでもアレンジできそう ・石油などの資源面で、海外への依存が減らせる 		B	8

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
11	脱炭素なエネルギーを発電しているまち	<p>地域でエネルギーをつかって、地域で有効に使う仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの地産地消 ・ごみ処理場を発電所にアップデートする ・バイオマス発電 ・リサイクル <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの有効活用ができる ・発電の脱炭素化は影響が大きい ・波及効果が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・循環サイクルの見える化 ・災害時などの自立電源の確保につながる 		G	12
12		<p>人が集まるところに楽しく発電できる機能づくりと「多摩環境コイン」で分かりやすく効果が見える化する仕組みづくりを一緒に行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリと連携・活用する <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素の取組に楽しく参加できる ・自分の行動が見える化することで社会的評価につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代でのコミュニケーションにつながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントの所得基準の設定が難しい 	E	6

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
13	脱炭素なエネルギーを発電しているまち（続き）	<p>発電を見える化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電を可視化し楽しくする「遊び発電」をする ・サイクル発電、ランニング発電、トランポリン発電、お散歩発電など、いろいろな「遊び」を使って発電する ・子どもが行きたいと思える場所には親も来る ・発電がいかに大変かも可視化できる ・発電した電気をポイントや仮想通貨にして、既存のポイントにも交換できるようにする <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「団地改造」とセットで考えたい ・楽しいことは人に伝わりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気の大切さの意識改革 ・ポイントとの連携で経済にも効果があるのではないか 		F	4

移動

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
14	歩き・自転車で暮らしやすい、コンパクトなまち	楽しく歩いて移動できるまちに！ ・歩きやすい舗装、休憩場所、ベンチがある 【イチオシの理由】 ・歩きやすい、歩いて楽しい環境があれば、もっとみんな歩くようになる可能性がある	・コミュニティづくり（顔見知りができる） ・安全や防犯につながる	・設置場所 ・管理者	D	2
15		自転車等のシェアリングスポットを増やして便利にすることでシェアリングを増やす ・借りる場所は駅前などの便利な場所にあるが、返す場所が家から遠いなど便利ではないので、返せる場所を増やす ・地域の人の生活スタイルや使い方を考えて設置することが大切 ・地域コミュニティの拠点とシェアリングスポットを組み合わせることで、口コミで広げられる 【イチオシの理由】 ・「団地改造」とセットで考えたい	・フットワークが軽くなる ・高齢者の移動も促進される	・場所の確保	F	6
16	CO2を排出しない手段で移動している	人力車を走らせる ・聖蹟桜ヶ丘と多摩センターを結ぶ 【イチオシの理由】 ・高校生や若者が参加しやすい	・変わったことをして注目 ・観光にも移動にも使える	・実習や安全管理、免許	E	10

学び・情報発信

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
17	一人ひとりが気候変動対策を自分ごととして捉えている	<p>正しい情報・選択肢を市民、企業、行政で共有することからはじめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が最善かの理解を深めることが大切 ・深い議論やコミュニケーションを経ることでマインドチェンジできる ・気候問題の話題は日常会話に出てこないため、ハードルが高いし、何が正しいか分からない人が多いと思う <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが正しい情報を知ることが活動のスタートになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報や知識を得ることで市民が、企業や行政に関わるきっかけにもなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく伝える工夫が大切 ・太陽光パネルの製造と新疆ウイグル自治区の人権問題との関係が心配。脱炭素だけではない社会問題全体として考えていく必要がある 	C	5
18	環境や気候変動について学び、情報発信を積極的に行っている	<p>脱炭素について知る・学ぶ・考える場やツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高の教育現場でもっと教える ・大人向け講座 ・SNS や YouTube、CM といったメディアを使った発信 ・YouTube では、学生、大人、子供向けで T-dance のような動画をコンペで募集する <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素といわれても、何を？何故？取り組まなければならないのか、わからない人が大多数。 ・まずは現状がどうなっていて、どこを目指すのか？それを共有できないと始まらない。全ての 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの特技やアイデアを持ち寄って活かすことができる。 ・制作などを通じて仲良くなり、活発なコミュニケーションを生み出して、コミュニティづくりにつなげる ・シビックプライドの醸成につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や企業など拡散効果があるメディアなどの 	G	6

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
	環境や気候変動について学び、情報発信を積極的に行っている（続き）	<p>始まりは現状の見える化、状況の共有だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのために自分が何ができて、社会に何が必要か？という情報も入手しにくいのも事実。ムーブメントを起こす上では発信が必要。 ・全ての人を巻き込める何かとして、多様なツールを使うことで、こどもから大人まで巻き込めるツール、コンテンツになり得る。 				
19		<p>多摩市大人の見学ツアーで「環境都市 多摩」をアピールする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ、ダストシュート、清掃工場、市庁舎改修を見学する ・アピールした上で環境の取り組みを進めていく ・街路灯のソーラー化、人感センサーによる省エネ化 ・企業の脱炭素の取り組みを見える化 <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダストシュートなど、多摩市にしかないものを活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口流入 ・観光客が増える ・環境先進のモデル都市に 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え方が難しい 	D	2

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
20	企業や大学等との連携を活かして、気候変動対策を加速させている	<p>環境研究都市づくり“Test Town TAMA”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通称 3T。研究機関、センターをつくって拠点にする ・社会実験、取り組みを実施して、その結果を発信する ・ペットボトルの量の規制や、エコ認定商品といった社会実験 ・そのための条例をつくり、市長が宣言する <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に新しい挑戦ができる ・失敗しても大人が得意な Plan、Do、Check、若者が得意な Action で次に活かす ・「探究の時間」など市内の高校などとも連携 ・拠点があることで、今議論されていることを展開しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境都市「多摩市」がブランド化 ・移住者が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の規模が必要。建て替えが検討されている大型施設や公共施設の活用が必要。 	G	17
21		<p>「炭素税」のように、CO2 排出量を商品価値と連動させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 の排出量が多い商品が高額になるようにする <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜本的に社会を変える改革的な効果がありそう ・企業努力として CO2 排出を抑えることに努めざるをえない状況がつかれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の価値感が変わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高額なものでも、お金を持っている人は、お金で解決できてしまう 	E	3

ID	30年後のイメージ	アイデアの概要（まちに必要な機能やしぐみ）	脱炭素以外の相乗効果	実施する上での課題	GP	投票
22	企業や大学等との連携を活かして、気候変動対策を加速させている(続き)	<p>脱炭素に取り組む優良事業者に、ポイント制や法人市民税減免などの優遇措置を設けるか、違反者に対する行政罰を設定する</p> <p>【イチオシの理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期間で効果が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素に熱心な企業が多摩市に移転してきて企業誘致のきっかけになり、税収が増える 		A	16

各グループの発表

2023/6/11

多摩市気候市民会議

A

- ペットボトルの飲料の中身を給水する。永山高校とモデル校に / 大企業主体
- 長くもつものを売りをやすくする。サフスク、リース
- 脱炭素に取り組む企業へのポイント加算 / 減税

B

- 学校給食でストローをなくす / 大人にも効果が出ない
- ペットボトルにゼロポイントをかける / ホームレスの住居 / 持ちの景観がよくなる
- 太陽光発電がひろがるしぐみ / 基準、ギム化 / エコカー / 工場の一部が減る

C

- 正しい情報と市民・企業に浸透させて意識改革 → 別の地味な取り組み / 強制的な罰金が会社にはおかし
- 太陽光パネルの製造を産業化 / 誰が作るのか? / 誰が買うのか?
- 消費社会からの転換 / 長く使う、ハイオマズ活用 ← EU: 計画的削減化を禁止 / ゴミ減らさないと減る / GDPにわかるようにする / 指標を考案

D

- コンパクトなまちづくり / 現実的
- 国土地整備、脱炭素生活ができる / 建物コンパクト化
- 大人の見学ツアー「環境都市 多摩市」をアピール / モデル再生都市としてPR / アスファルト舗装、新庁舎もエコに使う / 多摩市にしかないもの
- 歩いて楽しいまちへ! / 歩いて移動 / 保たて場所、ほろりと歩きやすいものへ / ベンチ

E

- カーボンプライシング
- CO2排出量と商品価格に上乘せする / 「高い高いもの!!」ブランドの付加価値 / どのくらい排出量の少ないものを安くする?
- ゴミ箱を設置、しっかり管理 / 雇用が生まれる ← 誰がやるのか?
- 環境コイン「タマコイン」 / 環境にいいことしたらもらえる / 国土地整備 / 足踏み発電 / 換気扇を回す
- 人力車 / 安全管理 / 走る

F

- シェアリングスポットを増やす / コミュニティスポットも併設 / 電気の料金 / 再認識
- 発電を見える化する / 遊んで発電 → 楽しく発電して / 公園で遊んでいるから発電
- 国土地を再改造 / 公園に作る / 公園で遊んでいるから発電

G

- 「イネギ」の地産地消 / バイオマス、循環型
- 脱炭素について知る・学ぶ / 考える場 / マチ、教育機関 / フクリ
- テストタウン「3T」 / 研究をかねてみる / 条件、特長 / エコ消費、年々進むか?

三上先生

- 身近なところから始めた
- GDPに代わって環境を指標にする / 再認識 / 個人の行動 / 国土地整備 / 現実的
- 国土地整備: 現実的
- 学校の先生が率先してやる / 市民の意識が上がる / 日本でもカーボンプライシング / 指標

山下先生

- 多摩市ならではのものを / 出さなければ / カーボンプライシング / 企業も知ってほしい!

講評



江守先生

- ・身近なことから社会のことまで幅広いアイデアがあって面白かった。
- ・国連では GDP に代わる新しい指標をつくる動きが本格化している。ブータンの GNH（国民総幸福）のように、多摩市独自の指標をアピールすることで世界の議論の先駆けとなれる。
- ・製品の長寿化が世界でも話題になっている。欧州連合（EU）が顧客の購買を促すための計画的陳腐化を規制する可能性がある。
- ・脱炭素に取り組む企業の優遇はいいアイデア。研究機関をつくって社会実験に取り組むのは面白い。
- ・団地の改修は、現実的に脱炭素等の条件を考慮して取り組むのが大切になってくる。
- ・炭素税やカーボンプライジングが日本でも本格化する。多摩市での取組も実現し得る。



三上直之先生

- ・直接排出の削減に結びつくものから刺激を与えるものまで、それぞれのグループから幅広いアイデアが出ていてよかった。
- ・アイデアを実現するためには、行政と企業と市民の関わり方を考えていくとよい。

北海道大学 高等教育推進機構 准教授



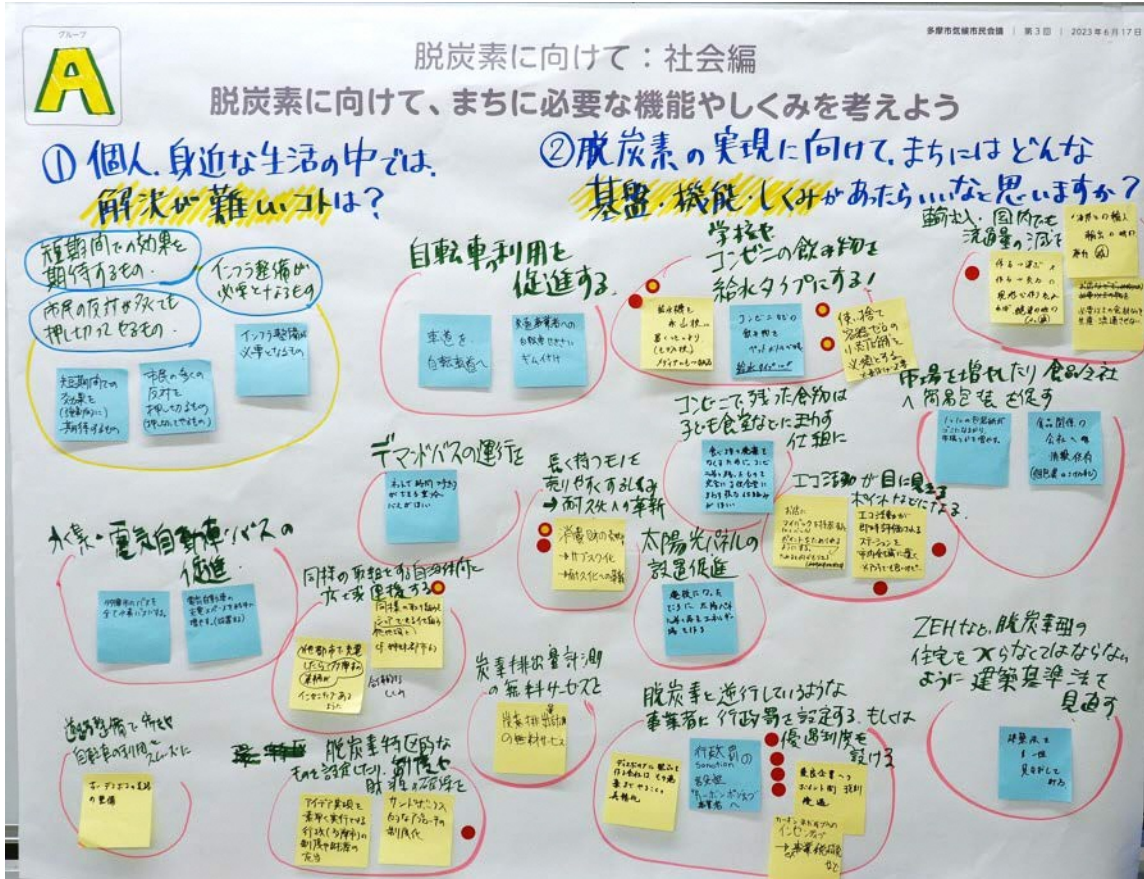
山下先生

- ・規模の大きい話だけでなく、多摩市の固有名詞が出てきたのが良かった。
- ・インターナルカーボンプライジング（企業内部で独自に設定・使用する炭素価格）を算出している企業を褒めることも、まちとしてできることの一つ。
- ・「Test Town 多摩」で環境アイデア起業コンテストを開催し、若者がチャレンジできると面白い。

各グループのまとめ

A グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

●短期間での効果を期待するもの

- ・短期間での効果を強制的に期待するもの

●市民の反対が多くても押し切ってやるもの

- ・市民の多くの反対を押し切ってやるもの

●インフラ整備が必要となるもの

- ・インフラ整備が必要となるもの

② 脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア

●水素・電気を利用した自動車・バスを促進する

- ・多摩市のバスを全て水素バスにする
- ・電気自動車の充電スペースをまち中に設置する

●道路整備で徒歩や自転車の利用をスムーズにする

- ・古いデコボコの道路の整備

●自転車の利用を促進する

- ・車道を自転車道に
- ・交通事業者への自転車積載を義務付ける

●デマンドバスの運行を行う

- ・ネットで時間予約ができる乗合バスがほしい

●長く持つモノを売りやすくする仕組みによって耐久化への改革を行う(◎1、○1)

- ・消費財の売り切りから、サブスクリプション化への移行や、耐久化への革新

●同様の取組をする自治体と広域に連携する(◎1)

- ・同様の取組を他地域とシェアできる仕組み(姉妹都市的な)
- ・多摩市の車両が他都市で充電したらインセンティブがあるようにする
- ・全体的な仕組み

●炭素排出量計測の無料サービスを提供する

- ・炭素排出量計測の無料サービス

●脱炭素特区のようなエリアを設定し、制度や財源を確保する(○1)

- ・アイデア実現を素早く実行できる行政(多摩市)の制度や財源の充当
- ・サンドボックス(保護された空間)的なアプローチの制度化

●学校やコンビニの飲み物を給水タイプにする(◎3、○1)

- ・コンビニなどの飲み物をペットボトルではなく、給水タイプにする
- ・給水機をモデル校の永山高校に置くことにより、メディアにもつながる
- ・条例は必要だが、使い捨て容器ゼロの小売店舗を必須とする

●コンビニで残った食べ物は子ども食堂などにまわす仕組みをつくる

- ・食べ物の廃棄をなくすためにコンビニ等の残ったものを完全に子ども食堂にまわすような仕組みがほしい

●エコ活動が目に見えるポイントなどにする(○2)

- ・お店にマイバッグを持参するとポイントをもらえ、ポイントを貯めると何かがもらえる
- ・エコ活動が即時評価されるステーションを市内全域に置くか、そういったアプリを開発する

●太陽光パネルの設置を促進する

- ・廃校になったところに太陽光パネル等を設置して再生エネルギー場をつくる

●脱炭素と逆行しているような事業者に行
政罰を設定するか、優遇制度を設ける

(○4)

- ・CO2 排出量の多い事業者へ行政罰の設定
- ・優良企業へのポイント制や税制優遇などの優遇措置を設ける
- ・カーボンネガティブ事業者に対するインセンティブとして事業税減免などを行う
- ・ディスプレイ製品を作る会社は、その廃棄まで行うことを義務付ける

●輸出入の減少、国内でも流通量を減少さ
せる (○1)

- ・現地で作り、売れば配達の際に排出されるCO2 が減少する
- ・海外との輸出入の際に飛行によるものを減らす
- ・必要以上の食材などを生産、流通させない

●市場を増やしたり、食品会社へ簡易包装
を促す

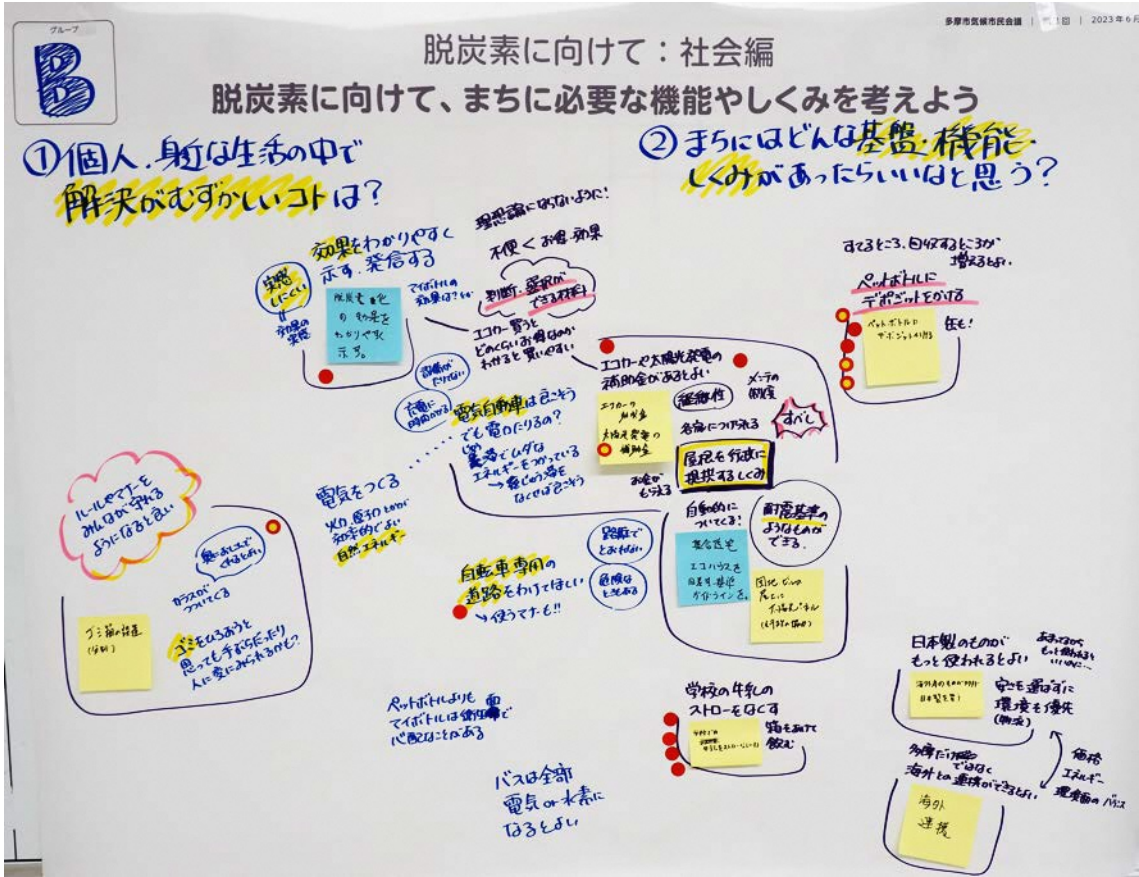
- ・一つ一つの包装紙がゴミになるから市場と
かを増やす
- ・個包装は避けるなど、食品関係の会社への情
報共有を行う

●新築の住宅はZEHなどの脱炭素型の住宅
が必須になるように、建築基準法を見直
す

- ・建築基準法を一旦見直してみる

B グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

●取組の脱炭素効果を分かりやすく示し、発信すること (○1)

- ・脱炭素化の効果を分かりやすく示す
- ・効果を実感しにくい
- ・マイボトルの効果についてなどわからない

●ごみの分別など、ルールやマナーをみんなが守れるようになると良い (◎1)

- ・分別ができるごみ箱の設置
- ・ごみをカラスがつつくので奥に押し込んでくれると良い

・ごみを拾おうと思っても手ぶらの時、人に変に見られるかもしれないと思ってできない

●電気自動車にするメリットが少ない

- ・電気自動車は良さそうだが電力が足りるのか
- ・電気自動車も渋滞で無駄なエネルギーを使っているのでは、渋滞をなくせば良いのではないか
- ・充電できるスポットや設備が足りていない
- ・充電に時間がかかるので、高速道路などで遠出がしづらい

●自然エネルギーの効率性の向上

- ・火力、原子力などが効率的で良いが、自然エネルギーはあまり効率できてはない
- ・各家に付けられる
- ・メンテナンスの制度

●公共交通の脱炭素化

- ・バスはガソリンではなく全て電気か水素になると良い

●自転車専用の道路を設け、車側のマナーも向上してほしい（○1）

- ・自転車専用の道路を分けてほしい
- ・自転車に乗る側も逆走しないなどマナーを守る必要がある
- ・路駐する車があると専用道路があっても通れないことがあり、避けて通る際は車道に出て危険

●マイボトルの衛生面が気になり、ペットボトルを使ってしまう

- ・マイボトルは衛生面で心配なことがある
- ・ペットボトルは口をつける前には雑菌がない
- ・マイボトルを1日持ち歩くとどのくらい雑菌が増えるか不安になる

●エコハウスを目指す基準やガイドラインがほしい

② 脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア

●判断や選択ができる材料・情報を提示する

- ・理想論にならないようにする
- ・不便よりもお得や効果がわかるようにする
- ・エコカーを買うと、どのくらいお得になるのかが分かると買いやすい

●エコカーや太陽光発電の補助金があると良い（◎1、○2）

- ・エコカーの補助金
- ・太陽光発電の補助金
- ・設置の助成金はあるが、メンテナンスなどの継続性が負担になる

●太陽光パネルの設置を促すために、屋根を行政に提供する仕組みがあると良い

- ・各家が行政に屋根を提供し、義務的に取り付ける
- ・メンテナンスも行政が担う
- ・新築の物件には自動的に太陽光パネルが設置されるようにする
- ・「したら良いよね」よりも、「するべきこと」になっていると良い
- ・耐震基準のようなものができる
- ・集合住宅でエコハウスを目指す際の基準となるガイドラインを策定する
- ・行政の協力によって団地、ビルの屋上に太陽光パネルを設置する

●学校の牛乳のストローをなくし、箱をあけて飲むようにする（○4）

- ・学校での牛乳をストローなしにする

●ペットボトルをデポジット方式にする（◎3、○2）

- ・ペットボトルにデポジットをかける
- ・捨てる場所、回収する場所が増えると良い
- ・缶にも応用できる

●日本製のものがもっと使われるとよい

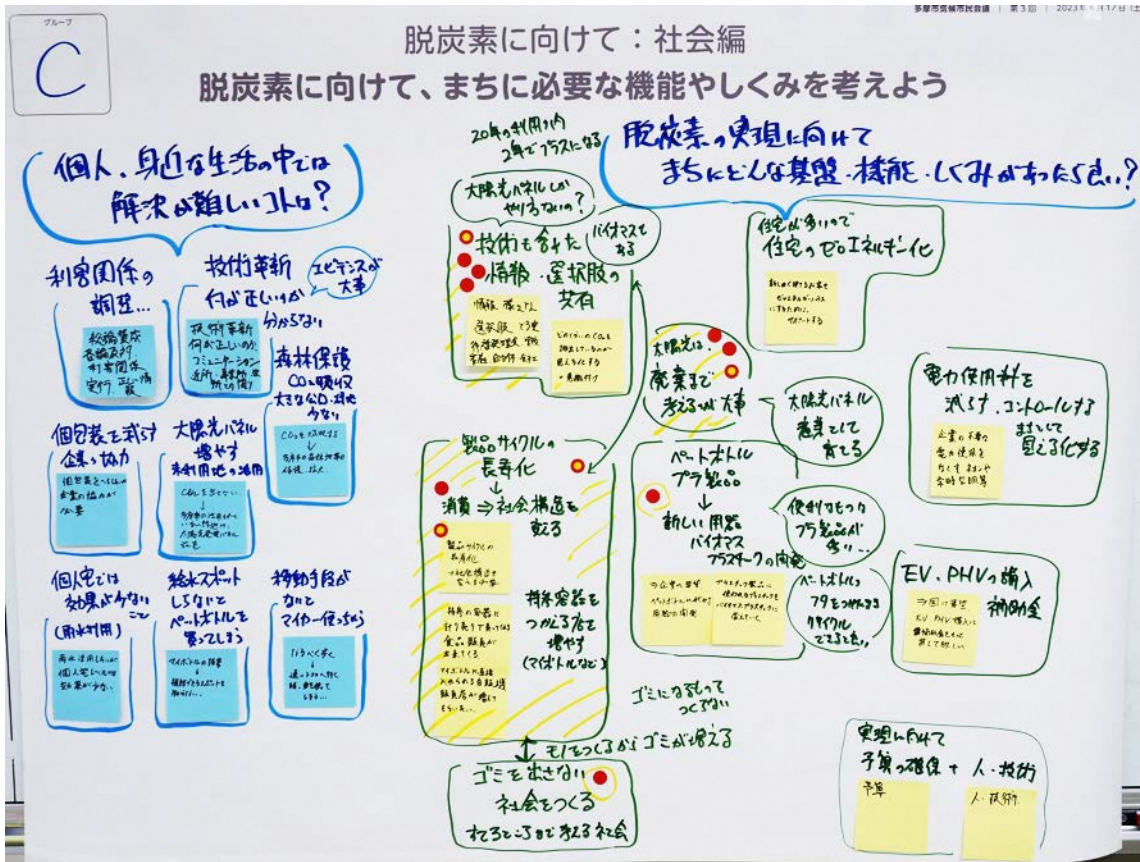
- ・海外製のものが多すぎるので日本製のものをかう
- ・安さを選ばずに環境を優先する買い物
- ・日本の製品などが余っているからもっと使われると良い
- ・価格、エネルギー、環境面のバランスが重要

●多摩市だけでなく、海外との連携ができると良い

- ・海外連携
- ・多摩市の脱炭素の取組を海外にノウハウ提供する
- ・途上国などで環境にも配慮した新しい技術が伝わると良い

C グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

●利害関係の調整

- ・総論賛成、各論反対があるので、利害関係者に正しい情報を与える

●個包装紙を減らすことへの企業の協力

- ・個包装を減らすには企業の協力が必要

●雨水利用は個人宅だけでは効果が少ない

- ・雨水活用をしたいが個人宅レベルでは効果が少ない

●技術革新において、何が正しいかわからない。コミュニケーションやエビデンスの共有が大事

- ・技術革新において何が正しいのか、近所、事業所、役所との関わりでのコミュニケーションが大切

●多摩市の未利用地を活用して、太陽光パネルを増やすこと

- ・太陽光発電はCO2を出さないで、多摩市の活用されていない緑地に太陽光パネルを設置する

●給水スポットを知らないと、ペットボトルを買ってしまう

- ・マイボトルを持参しても給水できるスポットを知らない

●大きな公園や緑地が少ない。森林保護や拡大によるCO2の吸収を促進する

- ・多摩市の森林地帯の保護、拡大によってCO2の吸収量を増やす

●車に代わる移動手段がないとマイカーを使ってしまう

- ・なるべく歩くようにしているが、遠いところに行く際は車を使ってしまう

② 脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア

●技術も含めた情報や選択肢の共有
(◎1、○3)

- ・様々な情報や選択肢をどうやって学校、家庭、自治体、会社で実行、啓発していくか
- ・どのくらいのCO2を排出しているのか見える化して、意識づけにつなげる
- ・発電方法として、多摩市では太陽光パネルだけでなく、バイオマスの可能性もある

●製品サイクルを長寿化して、消費中心の社会構造を変える (◎2、○1)

- ・消費サイクルの長寿化によって社会構造を変える必要がある
- ・持参の容器に量り売りで売ってくれる食品販売ができてくる
- ・マイボトルに直接飲み物を入れられる自販機や販売店が増えてほしい
- ・マイボトルなどの持参容器を使える店を増やす

●ゴミを出さない社会をつくる (○1)

- ・捨てるところまで考えられる社会
- ・ゴミになるものをつくらない
- ・モノをつくるからゴミが増える

●太陽光パネルは製造から廃棄まで考えることが大事 (◎1、○2)

- ・太陽光パネルを産業として育てる

●ペットボトルやプラスチック製品に代替する新しい発明、バイオマスプラスチックなどを普及させる (○1)

- ・ペットボトルに代わる容器の開発を企業に要請する
- ・プラスチック製品に使われるプラスチックをバイオマスプラスチックに変えていく
- ・便利なものはプラスチック製品が多い
- ・ペットボトルのフタをつけたままりサイクルできると良い

●電力使用量をまち全体で見える化し、
コントロールして、減らす

- ・ネオンや常時空調といった企業の不要な電力使用をなくす

●EV、PHV などの購入に対して補助金を
給付する

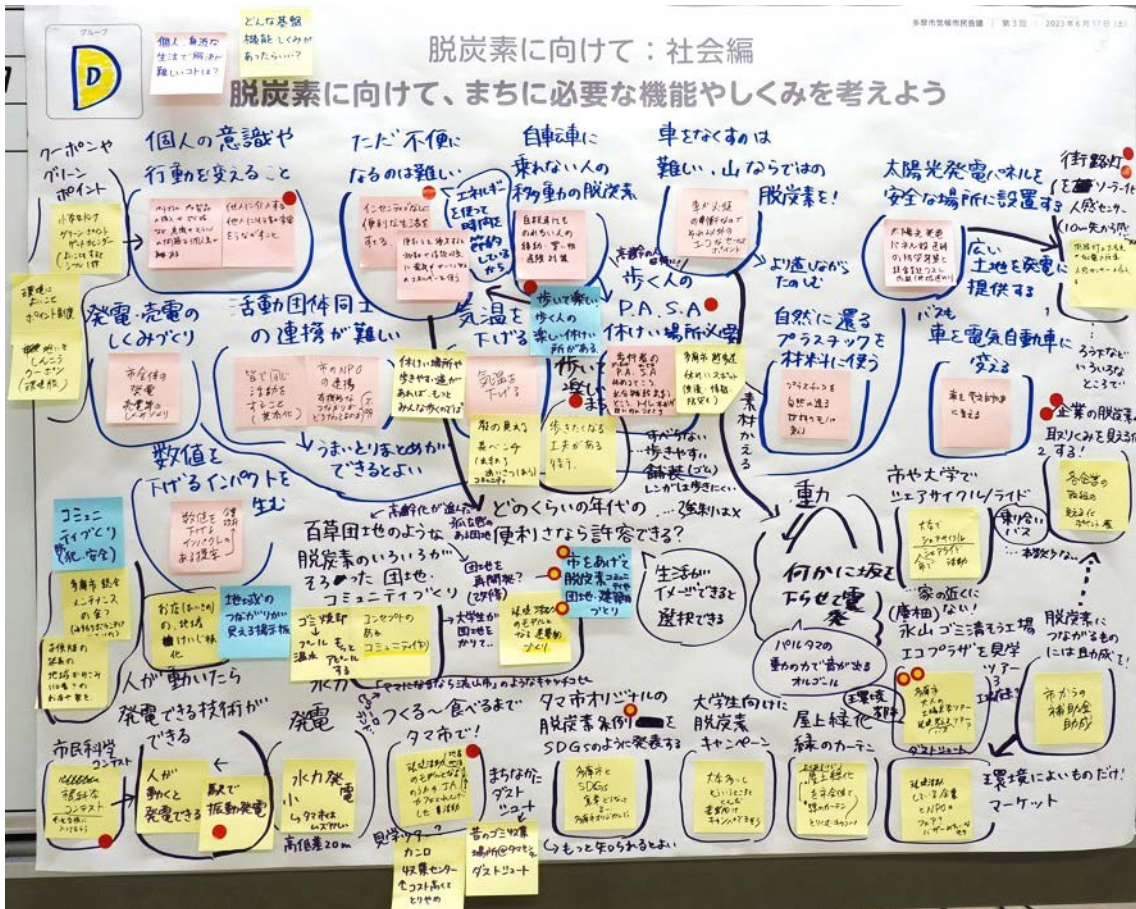
- ・国への要望として EV、PHV 導入に補助金をもっと出してほしい

●実現に向けての予算の確保と人と技術によるサポートを提供する

- ・予算
- ・人や技術

D グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

- 個人の意識や行動を変えること (○1)
 - ・ペットボトル、プラ製品の購入やポイ捨てなどの意識やモラルの問題で個人差がある
 - ・他人に介入したり、行動変容を促すこと
- 太陽光発電パネルを安全で広い場所に多く設置すること
 - ・太陽光パネル設置時の防災建築と税金負担コスト問題 (地域連携)
 - ・広い土地を発電に提供する
- 発電、売電の仕組みづくり
 - ・市全体の発電、売電等のしくみづくり
- 様々な活動団体同士の連携がもっと上手くできると良い
 - ・共有化して皆で同じ活動をするのが難しい
 - ・市のNPO連携の有機的なつながりがどうなっているのか不明
 - ・うまく取りまとめができると良い

●**気温を下げる**

- ・ 気温を下げる

●**数値を下げるインパクトを生むことが難しい**

- ・ 企業や政府による数値を下げるインパクトのある提案

●**エネルギーによって便利な生活を享受しているのに、ただ不便になるのは難しい(○1)**

- ・ インセンティブなしに便利な生活を捨てる
- ・ 便利さを優先すると移動や情報収集に電気やガソリンなどのエネルギーを使う
- ・ エネルギーを使って時間を節約しているから

●**車をなくすのは難しいので、山ならではの脱炭素を考える必要がある**

- ・ 車が必須のまちなのでそれ以外のエコなセー
ールスポイントを考える必要がある
- ・ 寄り道しながら楽しむ

●**バスも車も電気自動車に変える**

- ・ 車を電気自動車に変える

●**自然に還るプラスチックの材料を使う**

- ・ プラスチック自然に還る素材のものに変える

② **脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア**

●**クーポンやグリーンポイントで個人が環境のために良いことをするモチベーションを高める**

- ・ 小学生向けに、良いことをするとシールが一枚もらえるグリーンポイントゲットカレンダーを作成する
- ・ 環境に良いことポイント制度
- ・ 環境版の地域振興クーポン

●**企業の脱炭素の取り組みを見える化する(○2)**

- ・ 各企業の取り組みの見える化、ポイント化を行う

●**脱炭素につながる取り組みには市から助成金を給付する**

- ・ 市からの補助金助成

●**環境に良いものだけマーケットを開催する**

- ・ 環境活動をしている NPO のフェア、バザーのようなものの開催

●**人が動いたら発電できる技術ができ、駅など人が集まる場所で発電する(○1)**

- ・ 人が動くとき発電できる
- ・ 駅で振動発電

●**小水力発電を導入する**

- ・ 小さな水力発電の導入
- ・ 高低差が 20 メートルなため(水力発電に必要な高低差が多摩市の高低差が分からなかったなのでこの表記です)、多摩市では難しい

●多摩市ならではの高低差を活かして発電する

- ・多摩市の高低差を生かして何かに坂を下らせて発電する
- ・パルテノン多摩の重力の力で音になるオルゴール

●学校などにも関わってもらい、脱炭素技術の市民科学コンテストを開催し、技術の発展を支援する（○1）

- ・市民科学コンテスト
- ・もっと学校に入ってもらって実施する

●古い団地をリノベーションするなどして、市をあげて、強いコンセプトを持って脱炭素コミュニティや団地、建築物をつくる（◎3）

- ・コンセプトのあるコミュニティづくり
- ・百草団地のような、様々な脱炭素に関わる設備の揃った団地、コミュニティづくり
- ・大学生が団地を借りてコンセプトをつくっていく
- ・環境活動のモデルとなる建築物づくり
- ・「母になるなら、流山市」のようなキャッチコピーをピューロランドなどと絡めてつくる
- ・百草団地は高齢化が進んだ孤立感のある団地
- ・団地をどうやって改修するか

●つくる～食べるまで多摩市で実現する！（○1）

- ・地産地消もかねて環境活動のモデルとなる農家やJA、カフェと連携した活動

●～年代程度、など生活水準のイメージができる生活レベルを落とすことも選択できるかもしれない

- ・強制はできないが、どのくらいの年代の便利さなら許容できるのか
- ・生活がイメージできると選択できる

●街路灯を太陽光で賄い、人感センサーで点灯、節電できるようにする（○2）

- ・街路灯の太陽光蓄電池の設置、人感センサーの導入
- ・廊下などいろいろなところで使用できる

●ごみ清掃工場、エコプラザ、管路収集センターなど、多摩市ならではの環境見学ツアーを実施して、環境都市として盛り上げる（◎2）

- ・管路収集センターはコストが高く、使用されなくなった
- ・永山ごみ清掃工場、エコプラザを見学するツアーの開催
- ・多摩市大人の工場見学ツアー、環境を考えるバスツアー
- ・環境都市という特徴
- ・工場の夜景
- ・まちなかにダストシュート
- ・多摩センターにある昔のゴミ収集場所であるダストシュート
- ・ゴミ焼却の余熱による温水プールをもっとアピールする

●多摩市オリジナルの脱炭素条例を SDGs のように発表する（◎1）

- ・多摩市と SDGs 憲章いるのか
- ・多摩市オリジナルで考える
- ・もっと知られると良い

●大学生向けに脱炭素キャンペーンを実施する

- ・市内に大学が多いので、大学も巻き込んだ若者向けのキャンペーンもできそう

●**屋上緑化や緑のカーテンのキャンペーンを行う**

- ・よくあるが、屋上緑化や緑のカーテンに市全体で取り組むキャンペーンの実施

●**もっと使いやすい場所で市や大学でシェアサイクル、シェアライドを進める**

- ・大学でシェアサイクル
- ・市でシェアライド活動
- ・家の近くにない
- ・乗合バスは本数が少ない

●**歩いて楽しいまち、歩きやすい道、歩くひとにとって楽しい休憩所があると、コミュニティづくりにも、脱炭素にもつながる（○3）**

- ・自転車に乗れない人の移動の脱炭素
- ・自転車に乗れない人の移動、買い物、通勤対策
- ・高齢者の人は特に歩くときの休憩場所となる P.A や S.A が必要
- ・歩行者の P.A や S.A として水分補給やトイレ、木陰にいられたりと休めるところ
- ・交流や情報交換、防災の観点から多摩市遊歩道や休憩スポット
- ・歩いて楽しいまち
- ・歩きたくなる工夫があるまち
- ・休憩場所や歩きやすい道があればもっとみんな歩くのではないか
- ・レンガは歩きにくく、ゴムの舗装であれば滑らないで歩きやすい
- ・コミュニティを作る機会として、挨拶をしあえるような顔の見える長いベンチ

●**防犯・安全のための見守り・駆け込みなどコミュニティづくりも大切**

- ・多摩市総合メンテナンスの会(みまもりボランティアみたいなもの)
- ・子ども版の延長の、地域かけこみ 110 番のお店や家を増やす

●**地域のつながりが見える掲示板があると、コミュニティづくりにつながる**

- ・ひいきのお店の、地域掲示板化をする

E グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

- 脱炭素に気軽に関われるような市民の興味を醸成すること
 - ・市民の興味をつくる
- 子どもたちに脱炭素に向けた教育を促進すること
 - ・脱炭素教育の促進
- 空気をクリーンにするために、駅前などの公共の場で喫煙所の対策を進めること
 - ・駅前などの公共の場から喫煙所をなくす
 - ・ごみが増える
- 廃棄物を再利用できるように、公共の場でのゴミ箱の設置や管理を進めること
 - ・ゴミ箱の設置や管理（定期回収）
- 過剰包装への対応に、スーパーや企業と取り組む必要がある
 - ・過剰包装の買い物をさせられているから多摩のスーパーなどの企業協力が必要
 - ・本当は国レベルでやりたい

●石油由来製品を買わないこと

- ・石油由来製品を買わない
- ・本当は国レベルでやりたい

●海外からの食品輸入を抑制し、輸送にかかるエネルギーや海外での食品生産におけるCO2排出量を軽減する必要がある

- ・食品輸入の抑制
- ・輸送のエネルギー

●普段の生活の中で、車に乗らなくても良い環境をつくること

- ・車に乗らない
- ・移動、生活

●太陽光発電を多摩市全体で行う

- ・太陽光発電を多摩市全体で行う
- ・エネルギーを変えていく

② 脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア

●廃棄物を効率的にエネルギーに変換するために、市内にごみ箱を設置して、管理を雇用のセーフティネットにする (◎3)

- ・企業で障がい者雇用率を達成できていないところと行政がつながって罰金、補助
- ・高齢者や障害がある人など、行政が雇用先として活用する
- ・ごみをエネルギーに変えられる
- ・生ごみは分解してCO2になる

●人が集まるところに楽しい発電機を設置し、ビジネスモデルをつくる (◎1、○3)

- ・公園や人が集まるところに楽しい発電機を設置
- ・設置費用は広告費などを想定する
- ・Disney、サンリオ、読売ランドなどで実施できると良い
- ・楽しむ健康づくりにもなる
- ・ビジネスモデルをつくる
- ・多摩市からテクノロジーをつくる
- ・エンタメと絡める

●「多摩環境コイン」によりポイント制度としくみをつくる (◎1、○2)

- ・多摩環境コイン (ポイント) の作成
- ・地域の人たちが気軽に使えて、ポイントが見える化し、ポイントを活用できる
- ・下北沢のカレーコインみたいなもの
- ・制度づくり

●タクシーやバスの代わりに人力車を走らせる (○3)

- ・高校や大学の部活ともコラボレーションさせる
- ・浅草、京都みたいな人力車を走らせる
- ・エネルギー&人と呼ぶ
- ・観光にもなる

●CO2排出量と商品価格を連動させ、見える化させる (○1)

- ・CO2排出量と商品価格を連動させる
- ・炭素税

●**オール多摩で、1日限定の電気のない生活体験を行う（〇1）**

- ・多摩市限定で1日電気のない生活を始める
- ・自己分析の機会になる
- ・みんなで計画停電
- ・盛夏と厳冬に計画停電
- ・企業とかお店とも一緒に取り組む
- ・インセンティブがあると良さそう

●**企業に向けた条例をつくる**

- ・企業に向けた条例をつくる

●**屋内に喫煙所をつくる**

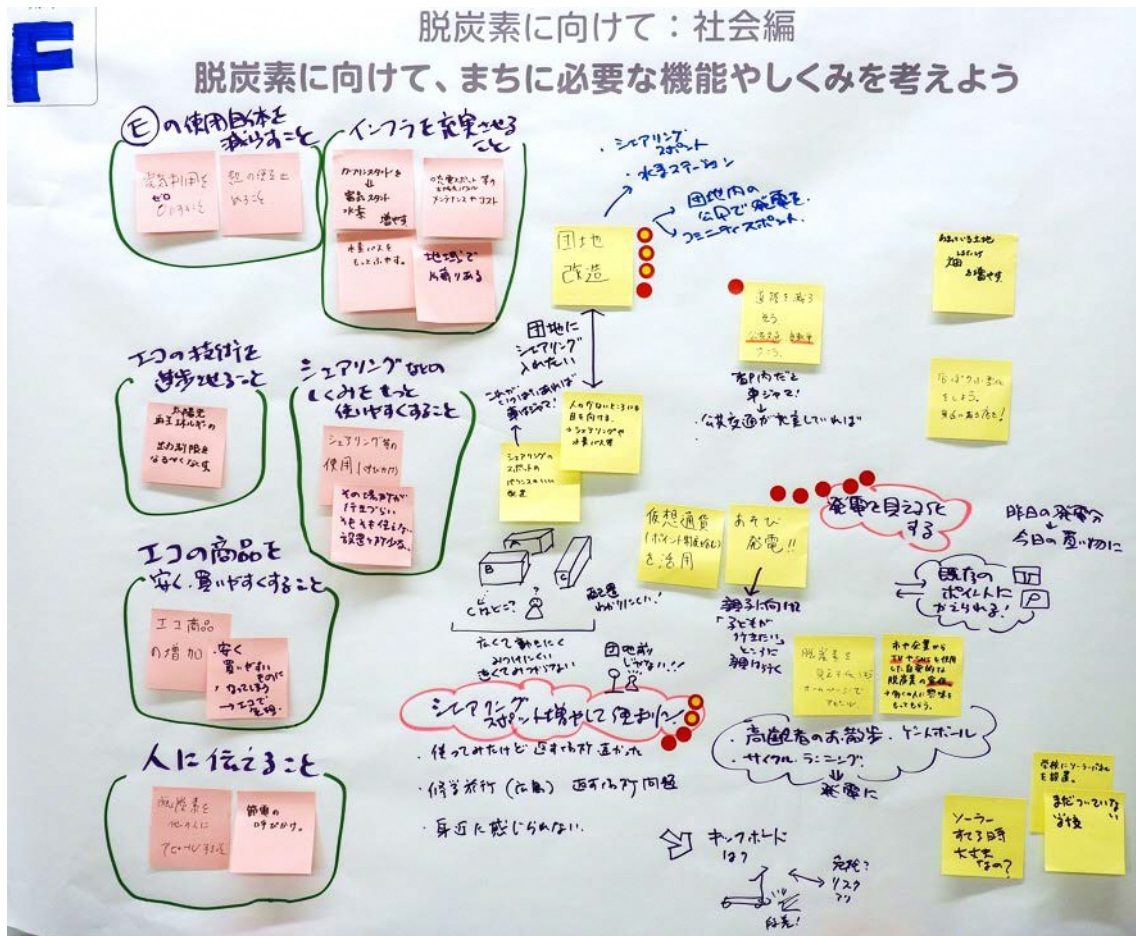
- ・屋内に喫煙所を移す
- ・たばこ禁止
- ・そもそも売らないなど

●**行政の補助金を充実させる**

- ・補助金制度の充実
- ・太陽光発電など
- ・今は金額が安すぎる

F グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

●エネルギーの使用自体を減らすこと

- ・電気利用をゼロにすること
- ・熱の使用を止めること

●エコの技術を進歩させること

- ・太陽光などの再生エネルギーの出力制限をなるべくなくす

●インフラを充実させること

- ・ガソリンスタンドを電気、水素スタンドにして増やす
- ・水素バスをもっと増やす
- ・充電スポットや太陽光パネル等のメンテナンスやコスト
- ・地域で偏りがある

●シェアリングなどの仕組みをもっと使いやすいように

- ・シェアリング等の使用や呼びかけ
- ・その場所が行きづらい
- ・そもそも使えない
- ・設置場所が少ない

●エコの商品を安く、買いやすくすること

- ・エコ商品の増加
- ・商品を選ぶ時に、今は安く、買いやすいものを選んでしまうが、エコ商品でも安く買いやすいものにするには難しい

●人に伝えること

- ・脱炭素を他の人にもっとアピールすること
- ・節電の呼びかけ

② 脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア

●団地を改造する（◎3、○1）

- ・シェアリングスポット
- ・水素ステーション
- ・団地内の公園で発電をする
- ・コミュニティスポットを活用して発電やシェアリングスポットをつくと口コミで広がる
- ・団地にシェアリングを取り入れたい

●シェアリングスポットを増やして便利にする（◎2、○2）

- ・シェアリングスポットの設置場所は、人の少ないところにも目を向ける
- ・シェアリングや水素バス等を増やしたい
- ・シェアリングのスポットのバランスの良い設置
- ・スポットがいっぱいあれば車は邪魔になる
- ・設置場所が分かりにくい
- ・団地は広くて動きにくく、目的の棟も見つけにくい、遠くて見つからない
- ・バス停の名前が「団地前」なのに、実際は団地の前じゃない
- ・シェアサイクルを使ってみたけど返す場所が遠かった
- ・広島島の修学旅行で使ったことがあるが、返す場所が問題だった
- ・シェアリングは身近に感じられない
- ・キックボードが増えていて気軽な感じはするが、段差などでは危険でリスクがある

●道路を減らそう（○1）

- ・公共交通を使う、自転車を使う、歩こう
- ・都内だと車は邪魔
- ・公共交通が充実していれば良い

●脱炭素や発電を見える化する（○5）

- ・遊び発電（遊びながら発電できる施設をつくる）
- ・脱炭素を見える化することにつながる
- ・子どもが行きたいところに親は行くので、親子連れに向けた施設にする
- ・子どもだけでなく、高齢者のお散歩、ゲートボール、サイクル、ランニングなどで発電をする
- ・ホームページでアピールする
- ・市や企業からTVやSNSをしようとした自発的な脱炭素の宣伝をし、多くの人に興味を持ってもらう
- ・仮想通貨（ポイント制度も含む）を活用して発電した分をポイントでもらえる
- ・既存のポイントに変えられるようにする
- ・昨日の発電分を今日のお買い物に活用できるようにする

●余っている土地を活用し、畑を増やす

●身近にある店舗を小型化しよう

●学校にソーラーパネルを設置する

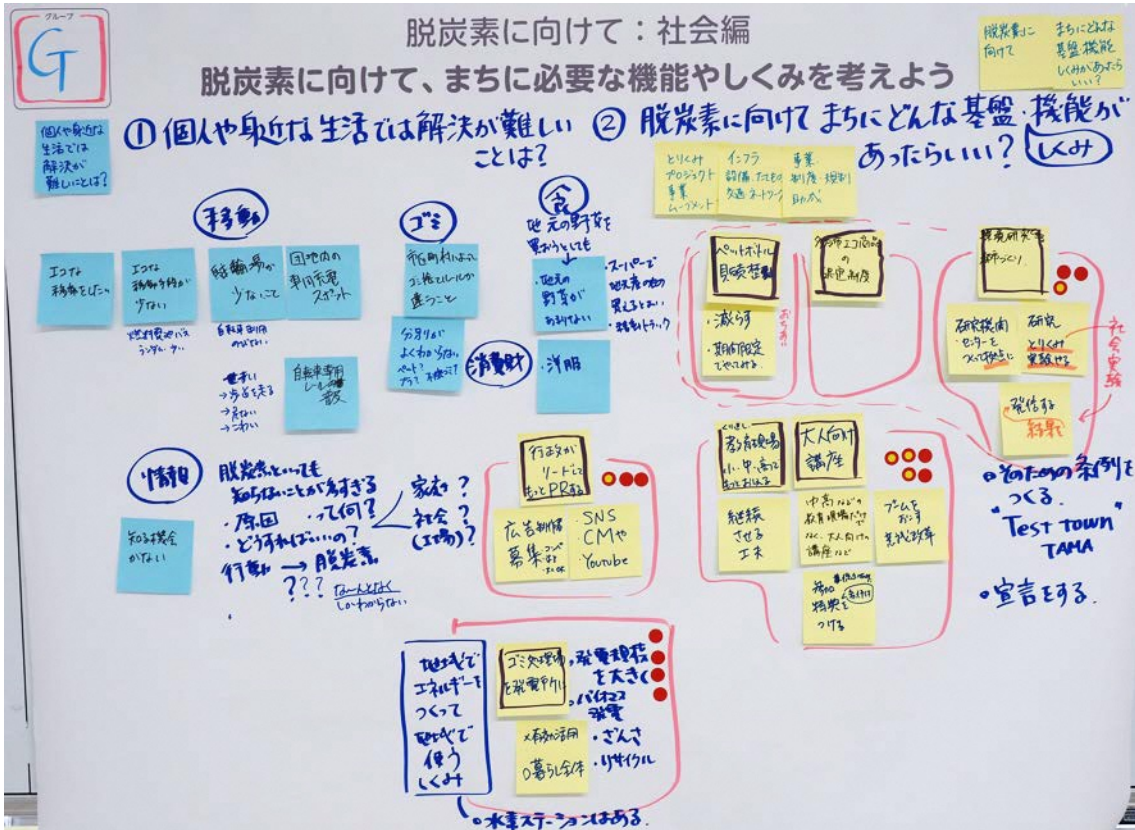
- ・まだ学校についていないところがある

●疑問：ソーラーパネルは捨てる時大丈夫なのか？

- ・製造から廃棄まで全体でエコにつながらないといけない

G グループ

凡例 | ●ご意見のポイント | ・付箋の言葉 | ◎○シール投票数



① 個人の身近な生活の中での取り組みや工夫だけでは脱炭素の実現が難しいこと

●エコな移動手段が少ないこと

- ・エコな移動をしたい
- ・エコな移動手段が少ない
- ・燃料電池バスはあるが時間が決まっていない、本数が少ない

●自転車利用が伸びないこと

- ・駐輪場が少ないこと
- ・自転車専用レーンの普及
- ・狭い、歩道を走る、危ない、怖い

●団地内の車用充電スポットがないこと

- ・団地内の車用充電スポット

●ごみの分別が分かりにくいこと

- ・市区町村によってごみ捨てルールが違うこと
- ・分別がよくわからない
- ・ペットボトルのシールやキャップはプラスチックなのか不燃ごみなのか？

●消費財

- ・洋服

●地元の野菜があまりないこと

- ・地元の野菜を買おうとしても地元の野菜があまりない
- ・スーパーで地元産のものが買えると良い
- ・移動トラック

●脱炭素と言っても知らないことが多すぎる

- ・知る機会がない
- ・原因
- ・脱炭素ってなに？
- ・どうすればいいの？
- ・行動
- ・家庭？社会？工場？

② 脱炭素の実現に向けてまちにあったらいいと思う機能・しくみのアイデア

●行政がリードしてもっとPRする

(◎1、○2)

- ・広告制作者の募集
- ・コンペ、学生、大人も子どもも応募OKにする
- ・SNS
- ・CM
- ・YouTube

●地域でエネルギーをつくって地域で使う仕組みをつくる (○4)

- ・ごみ処理表を発電所にする
- ・発電規模を大きく
- ・バイオマス発電
- ・食べ残し、家庭ごみの活用
- ・リサイクル
- ・有効活用ではなく、暮らし全体
- ・水素ステーションはある

●ペットボトルの販売を禁止する

- ・減らす
- ・期間限定でやってみる
- ・おちあい

●多摩市エコ商品の認定制度をつくる

●環境に関する研究所や拠点をつくる

(◎1、○2)

- ・都市づくり
- ・研究機関センターを作って拠点にする
- ・研究、取組、社会実験をやる
- ・結果を発信する
- ・そのための条例をつくり、“Test town TAMA”宣言をする (市長さんが)

●教育現場や大人向けの講座を開催する

(◎3、○2)

- ・小・中・高でもっと環境、脱炭素のことを詳しく教える
- ・繰り返し行う
- ・継続させる工夫も必要
- ・中高などの教育現場だけでなく、大人向けの講座など
- ・ブームを起こす意識改革
- ・参加を促すために「○回参加したら○○プレゼント」などの参加特典をつける